

## 4月定例教育委員会会議録

1、開会年月日 平成31年4月11日（木）

2、閉会年月日 平成31年4月11日（木）

3、出席委員氏名

田中 久善 西畑 敦司 名倉 幸子

西田 伊作

4、委員及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名

教 育 長 森 継 隆

事 務 局 長 木 村 昌 訓

事 務 局 次 長 青 木 仁

教 育 総 務 課 長 粕 谷 治

ま な び 推 進 課 長 高 山 仁

ま な び 推 進 課 付 課 長 山 村 結 紀 子

文 化 財 課 長 今 里 美 恵 子

教 育 総 合 セ ン タ ー 所 長 西 田 智 也

図 書 館 長 森 田 三 喜 子

市 民 協 働 ・ 女 性 活 躍 推 進 課 長 石 原 康 司

教 育 総 務 課 庶 務 係 長 中 村 亨

5、会議に付した議案の件名

日程第1 教育長報告

日程第2 議題 なし

日程第3 報告 ①3月市議会定例会の報告について

②平成30年度末教職員人事異動について

③平成31年度幼稚園・小中学校教育推進  
計画について

6、会議の経過議題

開会	午後	1時00分
終了	午後	2時10分

1 教育長

ただいまから4月の定例教育委員会を開会いたします。

本日の署名委員は、西畑委員と名倉委員にお願いいたします。

議事日程に入る前に、4月の人事異動で昇格及び教育委員会事務局に転入した職員の紹介をさせていただきます。3月で定年退職された仲谷局長の後任として、木村事務局次長が事務局長に昇格されます。

1 事務局長

木村でございます。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

1 教育長

続きまして青木仁事務局次長です。

1 事務局長

青木でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

1 教育長

紘谷治教育総務課長です。

1 教育総務課長

紘谷です。どうぞよろしくお願ひいたします。

1 教育長

今里美恵子文化財課長です

1 文化財課長

今里です。どうぞよろしくお願ひいたします。

1 教育長

それでは日程第1、私の報告です。

2ページを見ていただきたいと思います。

3月は卒業式ですね。北中の夜間学級の卒業式に参加しました。お

二人が卒業されました。お二人の経歴や、お二人ご自身の体験を作文にして語られたのですが、学ぶことの大切さを改めて実感いたしました。学び続けていきたいですし、学べることは幸せなことです。柳本幼稚園の卒園式、丹波市小学校の卒業式に出席しましたが、幼稚園、小学校での成長の跡が窺われました。家庭、地域、学校の連携協働の成果だと思います。

26日の天理市小中学校管理職研修は、兵庫教育大学 日渡先生を講師に迎え開催しました。新時代対応学校管理職マネジメント研修 1テーマ3時間の講座が6つ用意されているうちの、2つ「情報収集」「分析」をテーマに研修を受けました。1グループ4人で、グループの議論中心参加型研修でした。与えられたケース演習の問題は“「架空の学校 朝日南中学校の校長」として今後の取組を検討する”というものでした。朝日南中学校の現状を把握するために必要な情報を洗い出し、その情報のカテゴリー化をすることで自分の情報収集の特徴に気づくことができたのではないかと思います。午後は、「分析」がテーマでした。仮説を立て原因分析、問題分析のツリーを作成し、演習の課題に取り組んでいました。仮説の立て方が難しかったようで、先生方は苦勞されていました。午前9時から午後4時まで先生方は熱心に取り組んでくれました。後日感想を伺うと、大変好評でした。

その中で、日渡先生が、学校教育は、知識と価値観を伝えることだと話されていました。新任のころ、価値観を意識していましたが、いつしか薄れてしまいました。子どもたちの価値観にいい影響を与えたいものです。

年度始まりということで、若干お話しさせていただきます。今年度

の先生方に取り組んでいただく重点目標を、授業づくり・集団づくりに設定したいと考えています。お互いを認め合うことができる集団、そのいい集団の中で授業を受けることができる。授業で、わかる・できる体験が、仲間からの評価で自信をつけ、自分のことが好きになり、自己肯定感を高めることができれば、いい集団づくりにもつながります。今までも先生方には取り組んでいただいていたと思いますが、言葉として表すことで、より意識していただこうと考えています。知識・技能 技術、社会力、主体的に行動する力を育て、社会に貢献する人づくりを目指します。よりよい生活習慣、家庭学習習慣をつけ、自己肯定感を上げることができる取り組みをしていただこうと思います。子どもたちの得意、良いところを子どもたち自身が見つかる、仲間が指摘してあげることができる集団づくり、先生が積極的に認めてあげる、子どもたちにわかるように認めていく、そのような先生、児童生徒であふれる学校を目指します。先生方の努力で、徐々にではありますが、アンケート結果からは、生活習慣、家庭学習習慣、自己肯定感の指標は上昇傾向にあります。ICT教育として、今年度からiPadが小学校に入ります。みんなで工夫して有効に活用したいと思っています。

すべては言い切れませんが、教職員一人一人が主体的に活動してきますのでよろしく願いいたします。

何か御質問ございますか。

田中委員。

#### 1 田中委員

確かに教科書も変わってくるだろうし、今おっしゃるiPadを使っ

た授業も含めて、その授業展開も変わってくるだろうとも思っているのですけれども、そういう意味では、今回の先生がおっしゃっていただいている研修というのはよかったのかなとも思っています。やっぱり教師の指導力の向上ということが求められますので、よりこういう研修を受けた後、先生方がどのように展開しているのかという点検も必要ではないかなと思います。学期に1回なり点検していただくとともに管理職の研修であれば、実践交流みたいなものもされると良いのではないかなと思っています。

さらに学校現場の話になりますが、家庭教育も必要ではないのかなと思っています。家での家庭学習を先生方が伝えたとしても、家庭で親がその協力をしてもらわないと、やっぱり効果はでないのではないかなと思いますので、家庭教育も含めて発信していただくように先生方をお願いできたらなと思います。どうぞよろしく願いしておきます。

## 1 教育長

研修の点検や実践交流という事も校園長会や教頭主任者会に伝えて実行していきたいと思います。僕も今回この報告をするにあたり、研修を受けたノートや資料をもう一度見直すといった振り返りをしました。やっぱりそういう点検をしていかないと、受けて終わっていたら不十分だと思います。ただ、実際にみんなで協働して対話型、議論型の研修を一回でも、あの時間だけでも体験、経験するだけでも今後大きく変わっていけると思われます。

あと家庭教育のほうですが、保護者が子の教育について第一義的に責任をもつというものがあります。保護者が、もう一度自分のお子さ

んをしっかり育てていかなければならないということ、僕らもどうやって伝えていくのかということを考えていかなければならないと思っています。また御意見などよろしく申し上げます。

ほかには何かございますか。

西畑委員。

## 1 西畑委員

iPadのお話が出ましたので、この活用についてですが、どうしても大人よりも子どものほうが触るということに関して、先に技術を習得してしまうというようなことがあります。先生方も研修等に行かれて、この場合はこう触りましょうといったことを勉強されてくると思いますが、突拍子もないことをたまに子どものほうが思いついて、やり始めることもあると思います。そのほうがひょっとしたらおもしろいものができてくるかもしれないのです。子どもが思いついたことを、「そんな使い方はあかん」と言うのではなくて、そこから伸ばしてやれるような、仕組みというか、やり方を検討していただくと子どもたちがもっと伸びやかに成長していくのではないかなと思いますので、御検討をお願いしたいです。

また、家庭教育のお話がありましたが、ちょうど1年前にまなび推進課という課で学校教育と社会教育を一体にやっていくということになりました。学校教育と社会教育をもっとシームレスに考えていくという必要も、今後出てくるのではないかと思います。世の中はどんどん人口減少が進み、高齢化社会になっていくという中で、そこら辺の区分けをせずに一体として考えるやり方ができないものかなと思います。今すぐにといとなかなか難しいと思うのですが、地続きで考えてい

くということをお願いできればなと思います。

## 1 教育長

西畑委員がおっしゃっていただいたようにiPadを使っていくときに、子どもたちのほうが色んなアイデアで、色んなことをどんどんやっていくと思います。みんなが同じようにしていくのではiPadを使う意味がないと思いますので、みんなで学んでいくということを先生方に分かってもらい、自由にiPadを使ってもらいたいと思います。名前は仮称ですが情報教育（ICT教育）推進委員会という先生方の委員会を設けて、パソコンの得意な先生と不得意な先生とに入っていていただいてiPadの使い方などを考えてもらおうと思っています。

家庭教育も、みんなで色々これから考えていかなければならないのですが、スマホ利用のルールをそれぞれの御家庭で考えるというのが一番取り組みやすいのではないかと思います。スマホ利用のルールは大事な問題だと思うので、しっかりしたルールを家庭でつくる。使わせる前につくるということは、僕らのほうから発信していかなければならないと思っていますので、市PTAと連携していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

他にどうですか。

名倉委員。

## 1 名倉委員

重点目標の中で授業づくりというのが入っているのですけれども、訪問の中でもいろいろ感じたことは、特に小学校ではいろいろな工夫をされていたと思います。個人で考えたりグループで考えたりするときの仲間づくりや集団づくりにも関係あるのですけれども、例えば机の



並べ方一つにしても、子どもの興味を引くような並べ方もありますし、前回たまたま櫟本小学校に伺ったときに職員室の机の並べ方を矢印の風車ですか、教育長御存じですか。

1 教育長

職員室の机ですか。

1 名倉委員

職員室の机の並びを変えてみましたとおっしゃってちょっと見せていただきました。たまたまそういう機会がありまして、こう4つに風車のように机を並べているのです。それによって先生方も自分たちに及ぼす影響とか、やりやすさとかいろいろ感じながら、それを子どもに色々伝えていこうという考えだそうなのです。子どもたちにする前に自分たちも経験する、体験するとかいうこともすごく大事ですので、そういう工夫もできるのだなということを感じました。いろいろな事例とかを見て、良いことをみんなに伝えていくということをまたしていただきたいなと思います。

1 教育長

職員室に何回か入りましたけど。

1 名倉委員

最近変えたそうなんです。

1 教育長

最近ですか。そうですか。子どもさんの教室のほうは、机の高さを全部そろえられてグループで机をひっつけたときに段差ができないようにされたというのは聞いています。いろんな授業づくりとかで、情報も発信して、後援できるように支援できるようにさせてもらいます。

まなび推進課のほうも努力していただきます。

西田委員、何かございますか。

1 西田委員

結構です。

1 教育長

次のほうに行かせていただきます。

日程第2、議題は本日ありません。

日程第3、報告に移ります。3月市議会の報告については前に資料を送付しておりますので、読み上げは省略して教育委員さんからの質疑を受けさせていただきます。

何かございますか。

西畑委員。

1 西畑委員

3ページです。「プログラミング教育研修等の取り組み状況及び今後の展望は」というところですが、来年から始まるということなので、今年は聞かれることも多くなるのではないかなと思うのですが、たびたびこのような御質問を議会で受けているような印象があります。ですからもうちょっと具体的に、このように進めていますということが、公開されるようになればこの辺のややもや感も払拭されるのかなとも思いますので、もうそろそろ具体的に天理市はプログラミング教育についてはこのように進めていますというようなことの発信がほしいかなと思っています。

もう一つは、質問ですが、5ページから6ページにかけて「山の辺号バス運転管理業務の減額について」というところですが、このお話

の中で内容としては利用頻度の高い施設について研修の内容を検討していただいたりしているという、これ施設の利用方法を検討してもらうという意味ですか。

1 まなび推進課付課長

そうではなくて、具体的に施設の名前を出されますと公民館です。公民館のほうで山の辺号3回ないし、4回使っておられますので、グループをまとめて1回にさせていただくということで、回数を減らしてもらうという意味で書かせてもらいました。

1 西畑委員

そういう施設というのは、そういう意味ですね。普通は団体単位じゃないですか。それで公民館だったらこれも、これも一緒にできるとしようということを手く進めていただいたということですね。

1 まなび推進課付課長

そうです。

1 西畑委員

わかりました。ありがとうございます。

1 教育長

名倉委員。

1 名倉委員

5ページの小中学校空調電気料金のことですけれども、やはり電力の入札ということはすごく大事で経費削減には欠かせないことだと思います。今回これは何年の期間でしょうか。

1 事務局長

昨年度の分については、一応、一年度限りということで聞かせてい

ただいでいて、教育委員会部局の施設だけではなくて、本庁の出先等もございまして、前回もその部分と同じタイミングで入札をかけたということで料金が今に比べて、また安くなるのか、同等なのかというところはあるとは思いますが、昨年度はかなり入札することによって、ここにも書いてありますように60%ということですので、かなり有効な施策であったのではなかろうかなとは思っております。

1 名倉委員

そうですね。また一年、一年見直して、入札を一年ごとに。

1 事務局長

と言いますのは、エアコンを昨年度入れさせてもらった関係で、初めて入札の条件にあった時点の、そのキロワット数の数量がかなりふえておりますので、見直しをその辺からしなくちゃいけないということになりますので、再度改めてさせていただくという観点になります。

1 名倉委員

はい、わかりました。

1 田中委員

1点だけ、先ほどの教育長の今年度の重点目標とも関連するのかなと思うのが4ページの小学校の英語ですよね。きっと大変だろうなと思っているところですけども、教科として位置づけていく中で指導者養成も大変だろうなと思いますが、頑張ってくださいということで、実態的に英語の指導力とか大変でしょうね。

1 まなび推進課長

そうですね。小学校英語も本当に先生方、担任が教えるという原則になっているのですが、なかなか得手、不得手の先生がおられま

すので、本年度の英語専科の先生を、昨年度1名だったのですが、今年度は3名に増員させていただきまして、全部ではないんですけども、全ての学校を一応網羅できると、それを一緒に学びながら先生方の力量をアップしていけたらなと考えておるところでございます。

#### 1 田中委員

ある本によると、英語を教えてもらうのはいいけれども、そのことによって英語が嫌いになった子どもがいる。教えようと意欲的な先生がいるだけに、その辺も十分配慮して子どもたちが英語に親しみ、英語が好きにならないと。ところが英語だけやっていていいのかって本にもある。その辺のさじかげんも含めて楽しい英語教育をお願いしたいと思います。

以上です。

#### 1 教育長

よろしいでしょうか。

次に平成30年度末の教職員人事異動について、まなび推進課から報告をお願いします。

#### 1 まなび推進課長

平成30年末教職員人事異動につきまして報告させていただきます。県教育委員会から出されました教職員人事方針に沿って御報告させていただきます。

まず、一つ目といたしまして、年齢、性別、評価、勤務年数等を考慮した適材適所への配置につきましてですが、司書教諭資格の資格者の全校配置、男女比の改善、年齢にも考慮をして実施いたしました。

続きまして2点目、同一校の長期勤務者の解消においてですが、平

平成30年3月31日現在、天理市においては小学校で2名、中学校で2名の10年以上の長期勤務者がおりましたが、今回の移動によりまして、小学校はゼロになりました。中学校は異動が成立いたしませんでしたので、2名そのままでございます。また、新採4年以上の勤務者につきましては、再配置という県教育委員会の方針により小学校で6名、中学校で2名の他郡市への再配置が行われました。これは市内の対象者の36.3%に当たります。

3点目でございます。女性管理職の配置でございますが、今年度は校長1名、教頭4名の計5名ということで、昨年度と、校長が1名女性が減ったという形になると思います。

続きまして4点目でございます。人権教育、特別支援教育の充実と進行についてでございますが、県からの児童生徒支援加配、いわゆる人権推進教員でございますが、6名、市内6校に配置しております。また市単費の人権教育推進教員10名を市内8校に配置しております。それと市外の特別支援教育支援員を市内11校に配置、スクールサポートを2名増員して、26名。また通級指導教室を丹波市小学校、前栽小学校、西中学校に続いて、朝和小学校に新たに開設いたしました。

5点目でございます。幼児児童、生徒児童の充実強化についてでございますが、福住小学校の複式学級解消のための、単年度市単講師1名の配置並びに県から少人数指導、加配として市内に18名を配置させていただきました。また、小学校英語で、先ほど言いましたが英語専科教員を1名から3名に増員させていただきました。

以上、平成30年度末教職員人事異動の状況でございます。簡単ではございますが報告を終わらせていただきます。以上です。

1 教育長

人事異動について今報告あったわけですけど、何か質問はありますか。

田中委員

1 田中委員

中学校 2 名、10 年以上残っている人がどこの学校ですか。それといわゆる課題克服のために置いてあるのかといった理由はありますか。

1 まなび推進課長

福住中学校です。

1 教育長

たくさん同時に動かせないからです。

1 田中委員

人数が少ない、小規模ということですね。

いや、10 年にこだわることなくとも常に思いながら、別に問題が起こらなければいいのですけれども。そういう配慮があったのかなと思っただけで質問をいたしました。

以上でございます。

1 教育長

委員の方よろしいでしょうか。

西畑委員。

1 西畑委員

全県的に中堅者、ミドルリーダーの人材不足が見られると、全県的な様子なので、なかなか天理市だけというのは難しいかなと思うのですが、これに対しての何か、取り組みとか、何か今行われている

ことはありますか。

#### 1 まなび推進課長

年齢のことですから仕方がありませんので、40代半ばから後半は少ないというのは、これ仕方がございません。県のほうも、40代後半を優先的に採用人数を多くするとか、そんなことはしませんので、特に30代後半から40代前半にかけての中堅者研修いうのに県のほうの研修を力入れているところがございます。本市としましても、その中堅者研修に必ず行きなさいということを含めてやっておりますので。

#### 1 西畑委員

わかりました。

#### 1 教育長

人事異動についての報告に関してよろしいでしょうか。

それでは次に平成31年度幼稚園、小・中学校教育推進計画について、報告をお願いします。

#### 1 まなび推進課長

幼稚園教育推進計画（案）について、報告します。

まず、I基本方針については、例年どおりです。

5行目、「平成30年度に改訂、施行された幼稚園教育要領では、改訂の基本方針として、①幼稚園教育において育みたい資質・能力の明確化、②小学校教育との円滑な接続（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化）、③現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し（預かり保育や子育て支援の充実）があげられています。幼稚園は「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学



びに向かう力、人間性等」を豊かに育む場として捉え、「主体的・対話的で深い学び」を目指して幼稚園教育の一層の充実を図ることが求められています。」となっています。

それから、下から9行目、「就学前の子育てをめぐる諸問題の解決を目指し、平成24年8月に「子ども・子育て関連3法」が公布されました。平成27年度には、この法律に基づき、幼児期の学校教育や保育・地域の子育て支援を総合的に進めていくための「子ども・子育て支援新制度」が進められ、これまで以上に質の高い学校教育・保育の一体的な提供、保育の量的拡大、子育ての相談・一時預かりの場を増やすなどの地域の子育て支援の充実が求められています。」と続いています。

2ページ、7行目の、「また、次代をたくましく豊かに切り拓く上での「生きる力」の基礎を育む活動として、体験活動の充実、地域の人々との充実した交流等を計画的に取り組む必要があります。」ということで、次の、「以上のことを踏まえ、全教職員の組織的・計画的な推進体制のもと、今後の幼稚園教育のあり方を見据えた特色ある園経営に努め、全市的な見地から幼稚園相互の連携と交流を図り、幼稚園教育を充実させることが必要です。また、保育所及び小学校との交流や職員の合同研修会、接続期のカリキュラム作成等により、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続をはかることが必要です。」として、Ⅱ作成及び推進に当たってというところ、1推進計画の企画・立案は例年どおりです。次のところ、「2研究・研修の推進（1）園研究主題の設定と個人研究の推進（2）天理市幼稚園教育全体研修会（3）道徳性や規範意識の芽生えを培う教育の充実（4）発達や学びの連続

性を踏まえた教育の充実（５）実技講習会・教員研修会の実施（６）特別支援教育の推進（７）人権教育の推進（８）食育の推進（９）体力の向上（１０）「開かれた園」の推進」がありまして、（１１）市の研究活動部会では、幼稚園の５つの領域として健康・人間関係・環境・言葉・表現の５つの領域に分けて研究します。

続いて「３幼稚園教育の理解を深める情報発信の推進（１）天理市立幼稚園・こども園展（２）広報活動の推進」となります。

４事業計画は、事業計画の小・中学校と同一のところにありますので、後で説明します。

#### 1 西畑委員

資料のところで、赤字になっているところと、青字になっているところがあるのですが、これはどのような意味ですか。

#### 1 まなび推進課長

青字で書いているところは指導要領、幼稚園教育要領の改訂から大幅に昨年度変更したところです。それを基として、赤字のところは31年度で変更したところです。

同じく小・中学校のほうも同様となっています。

続きまして小・中学校教育推進計画です。基本方針ですが、8行目、「学習指導要領では教育基本法や学校教育法等の規定に則り、次の方針が示されています。①教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること。②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成のバランスを重視すること。③道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること。④英語教育の充実により、外国語を通じて、コミュニケーション力（資

質・能力)を養うこと。」とされています。

14行目部分ですが、「また、平成31年度は新学習指導要領への移行期間であり、次の方針が示されています。(1)「何ができるようになるか」を明確化(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進(3)各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進」となっています。

次2ページ、上から11行目です。「近年、社会教育の変化に伴い、子どもの生活習慣の乱れが、心身の健康や学力等に大きな影響を与えています。このような現状の改善を目指し、学校ではさまざまな課題を踏まえ、生活習慣や学習習慣の確立と、健康・安全・食に関する知識に基づく健康的な生活を実践する力の育成に努めなければなりません。」となっています。次に「Ⅱ作成及び推進にあたって1推進計画の企画・立案、2研究・研修の推進(1)学力向上のための授業・指導法の研究(2)生徒指導の推進・研究」とあって、ここに「いじめ・問題行動等、及び」を追記しています。続いて「(3)特別支援教育の推進・研究(4)教育領域における(ブロック別)人権教育推進研究(5)地域とともにある学校づくり(6)今日的課題への対応」と続き、(6)の中で、「子どもの実態や指導上の課題を踏まえ、道徳教育、外国語活動、キャリア教育、読書活動、安全教育、食育、特別支援教育の充実を図るものとする。また、教員のICTを活用した効果的な指導方法の開発やICT活用指導力の向上を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するために、ICTを活用した学習活動の充実を目指した授業改善を行う。」となっています。

続きまして、(7)教職員の研修方法並びに組織ということで、①

学校における教育研究主題の設定と個人研究、②市の研究活動部会と、ここに載せている、A、Bの組織があります。それぞれの教科の研究部会ということで、これをできるだけ活用していきたいと考えています。

続いて5ページ、平成31年事業計画表というところで、ここで先も申しあげましたように、年間を通して幼稚園、小・中学校の事業がここに掲載しています。例年と変わったところは森林環境教育体験学習推進事業が新たに設けられているところです。

そして、6ページ、赤字で書いているところです。平成32年度教科用指導、教科書、採択がここに入ってきます。本年度が教科書の採択の年になります。小学校が指導要領全面実施に向けての採択、中学校については定期的な採択というところで、昨年度、小学校であったように教科書は変わりません。ですので、平成26年度の調査研究の資料を活用してつくるという形ですので、教科書採択は今年小中ともに入ってきます。

## 1 教育長

推進計画について意見はありますか。名倉委員。

## 1 名倉委員

今回の見直しについて、いろいろな文言を吟味しながら見直しをされていることと思います。小・中学校の方の1ページ目の、(1)何ができるようになるかを明確化の①の「生きて働く」というのは、生きる力を育むという意味ですか、それとも違った意味ですか。

## 1 まなび推進課長

知識及び技能は持っているだけではなく、それをいかに使って、働

かせて、生きた知識、技能という意味で、使っています。

1 名倉委員

わかりました。そういう意味の「生きて働く」ですね。はい、わかりました。ありがとうございます。

1 教育長

他によろしいですか。田中委員。

1 田中委員

推進計画ですのでより具体的に効果のあるように、お願いしたいと思いますが、まず、幼稚園教育の推進計画の中で、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿があるわけですけれども、この内容にかかわる研修ということで、4ページに市の研究活動部会とあります。これが、5領域の中身だと思います。この5領域と、ここに挙がっている幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿とを、どう兼ね合わせていくのかという研修は非常に大事なことです。ぜひ、専門家の方に教えていただいて、うまく合わせていかないといけないと思います。具体的には2ページの保育所及び小学校の交流や接続期のカリキュラム、これに関わるものについてうまくつながっていかないと、という気がしますので、より具体的に研究すべきだということは伝えるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

1 まなび推進課長

幼・小の接続ということでさせていただいたのですが、本年度からは保育所の所長も含めて、保・幼・小で交流をしていくということで、例年続けていこうと考えているところです。

1 田中委員

非常に大事ですね。ぜひ、その研修のところで、「育てなさい」ではなく、「できるだけ力がつくようにやりましょう」ということになっているので、ぜひ、具体化を図ってもらえたらと思います。

もう一点は小学校教育推進計画の3ページ、地域とともにある学校づくりのところに、学校評議員制の活用とあります。これは現在も学校評議員制があるのかと思いますが、学校運営協議会がスタートするのではないかと思うのですが、どうお考えになっていますか。

#### 1 まなび推進課長

今のところコミュニティスクールで学校運営協議会等になりましたら、この学校評議員についてはなくしていこうかと、話をしているところなのですが、まだ、条文には評議員会設置することができると思いますので、まだ、これはそのまま載せています。

#### 1 田中委員

わかりました。ありがとうございました。

#### 1 教育長

西畑委員。

#### 1 西畑委員

まず、小学校のほうの1ページ、カリキュラム・マネジメントの、前年「確立」であったところが「推進」と変えられたということは、「確立はできた」ということなのでしょう。

同じように、カリキュラム・マネジメントについて、それから学校のほうでは3ページ、「学校評価システムの取組を企画立案に生かすとともに、PDCAサイクルの定着を図る」という文言がずっと残っています。これは幼稚園のほうにも同じことが書いてあるのですが、

評価システムの取組を生かして定着を図るという言葉が、青字にもなっていないということは何年もずっとこのまま書かれているということですね。ということは、学校訪問をする中で何校かは必ずPDCAサイクルの話があるのですが、これが定着にまだ至っていないということですよ。

#### 1 まなび推進課長

そうですね。学校評価システムも大分、定着はしてきたのですが、焦点が絞られていないというようなこともまだまだありますので、これが全て学校運営、学校経営に生かされているかというところは、まだ疑問があります。

#### 1 西畑委員

言葉として、ずっとあげられながら進んでいないというところがありますので、今おっしゃった、その焦点が絞られていないであるとか、そういう問題があるのであれば、そこをきっちり精査していただいてPDCAサイクルを回すというのであれば、きっちりと回すという取組を、進めて行っていただきたいと思います。

#### 1 教育長

私が平成27年に就任した当時にはカリキュラム・マネジメントという言葉が出てきていたので、それ以前からあったのだと思うのですが、確立しているとは言いきれない部分もありますが、中身は大分学校現場に入り込んでいるように思います。科目、教科間の横断型等いろいろなことは取り組まれていると思います。あとは、評価が来年度から変わるので、その評価であったり、コミュニティスクールで外部人材をどういうふうにして使っていくのかということで、「推進」と

なっていると思います。

#### 1 西畑委員

マネジメントというところで、いろいろと違う処方も出てくるとは思うのですが、そのPDCAという話となりますと、何をチェックして、次のアクションにどう生かしたかというようなところを、どのように検討したということが明らかになっていないといけませんね。

#### 1 教育長

PDCAはしていかないといけないと思いますが、まず、どのように評価をするかを決めようということで、なかなか決まらずに抽象的な文言が入ってしまうといったことがあります。その反面、教育現場では数値だけでは測りきれないこともあります。個人的には学校には、もっと客観的にわかる数値でされたらどうですかとは言っているのですが、やはり現場の先生方にすれば数字では割り切れないものがあるということは、耳にしますので、その辺の話を詰めていく必要があります。

#### 1 まなび推進課長

焦点を絞ってと先に言いましたけど、全部を完璧に行うのではなく、例えば細かい部分でやっていけば、しっかり生きるかなとも思います。また、Plan Do Checkまではいくのですが、Actのところまでが、もう次の年度が始まってしまって、たどり着かないことがある。なかなか学校現場ではそこまで回りませんので、最後のチェック、総括会議では、今までは長い時間をかけているのですが、そういうところを簡素化しながらやっていって、次につなげていこうという話はしています。それぞれ学校では、本当に必死になってやっているわけですが、



もっと客観的に簡素化できたらいいと思うのですが、なかなか割り切れないこともあります。全部を完璧にはできないので、焦点を絞ってしようということでやってみて、次に生かしているという学校も出てきていますので、そういったことも広めていけたらと思います。

## 1 田中委員

学校評価というのは、私たちが掲げた目標に対して、きちんできているかどうかを親に評価してもらうわけですね。私たちがやってきたのはそれです。天理市教育委員会は評価の基準が全てあるはずで、それをやることによって、今、私たちがやっていることの評価につながるかどうかの問題です。定着しないのはなぜかということを考えればいいと思います。学校長は、自分のビジョンをしっかりと立てなければならない。そして、そのビジョンは先生方とともにつくらなければならない。そして、そのつくったビジョンに評価を受けようということで一年やればいい。そして、その評価を発信することで、自分たちがやったことは正しかったのかどうか。子どもたちに伝わったのかどうかということを経験してもらえばいい。だから、その評価に対する内容をきちんと考えればいい話であって、何もかもを評価してしまう方がいいかということ、違う。何か課題に対しては、良いと言う親もいれば、悪いという親もいる。評価は評価として受けて私たちが獲得しようとした目標はできたかどうか。これをきちんと評価として受けて、できなかったことは、次のプランに生かしましょうとか、アクションを起こしましょうというPDCAをつくっていいのではないかな。なかなか定着するものではないというのは、現実問題としてありますが、学校問題がいろいろあるからこそ、徐々に積み上げていくと

というのが教育であって、子どもが変われば結果も変わります。組織が変われば、それなりの手だても変わっていくと思います。

1 まなび推進課長

本当に今おっしゃったように、学校の教育目標、それに対してどうだったのかというのが、この学校評価につながりますので、大事な部分だと思います。

1 まなび推進課長

学校関係者評価で、評議員の方に先生方や保護者の方からの評価が正しくできているかどうかというのを評価していただいています。

1 田中委員

学校運営協議会はどうなるのですか。学校評価については。

1 まなび推進課長

今後そうなるのかなと思います。

1 田中委員

あるのですよね。きっちり積み上げておかないといけませんね。地域の方が入ってくるとなればなおさら。

1 まなび推進課長

今後、そうなると思います。

1 田中委員

例えば英語教育を進めると、では子どもたちの英語教育については、ここまでという目標を立てるわけですね。それでやってみて、結果的に評価を受けたら一つも上がってない場合、それならどうすればいいのかと返していく、では来年からはもっとこうしようということが、あっていいのではないかと思うのですが、どうですか。評価というの

はもったきちんとした細かい部分でもいいのではないですか。

#### 1 教育長

他府県のある県での評価は簡単なもので数値があって、できたかできてないかで判断しています。奈良県は導入されたときから、文章表現になっていて、どっちでも取れるというような文章や、主観が入っているもので評価がなっていて、長い文章が書いていてというのが、私が現場にいたときの印象です。高校現場では変えようということでいろいろ意見が出て、できるだけ数値化にしてやろうということで、やり始めました。高校も数値にするまでに何年かかかったように、小・中学校も数値にするまでは何年かかかるのかなと思います。何か一つについてというのも考え方としてはありますが、英語のことで、いろいろなことが作用して英語に結果が出てくるので、私もこの仕事をしてと思いますが、一つのことをやったからといってすぐに結果につながるものでもない。いろいろなことを複合的にやっていかなければならなくて、その中でどこかを注目して見るというのはおっしゃるとおりで、そういう評価の仕方もあると思います。全体的じゃなくて、今年度は、ここを中心にチェックしようということ、これも一つの評価の方法としてやってみるといいと思います。主体的に、先生がまず納得して動かない限りは、どうにもなりません。

#### 1 田中委員

それは、そうですよ。だから先生方の意見は出してもらわないといけませんね。

#### 1 教育長

そうですね。

1 田中委員

ここはポイントかもしれませんね。

1 教育長

先生方、皆を巻き込んでやっていかないといけないと思います。日頃生徒に主体的と言っていますが、先生も主体的になって、先生も社会力をつけていく必要がありますね。

1 田中委員

おっしゃるとおりです。

1 教育長

P D C Aについては、今のように頑張らせてもらいます。

1 教育長

それではこれもちまして本日の定例教育委員会を閉会いたします。  
どうもありがとうございました。

閉会 午後 2時10分